



みんなのひろば



田中 彰
(富長)

暮らしの宝もの

先の衆議院選挙の投票率が、52.66%の史上最低を記録。アベノミクスの恩恵を感じない国民大半の感情と、どこかで運動しています。政治もまた、購入に値するかどうかというサービスとみられているよ

うです。「政治と金」という売り手側の信用、中身を伏せたまま「国民の命と財産を守る」という「コマーシャル、金太郎アメよろしく」「何々有識者の意見を聞いて」という政治手法など、国民はしらけています。

社会は、政治と地続きです。貧困と差別、相次ぐ悲惨な事件をメディアは伝えていきます。暮らしには、お金が不可欠。同時に、安心や喜びもまた...。私は今、公民館や学校に出かけ、囲碁を楽しんでいます。仲間との出会い、キラキラした子供の眼は、救いであり暮らしの宝です。

春の仁王堂公園

あとがき

この3月議会は「国保議会」だったといってもいいでしょう。国保特別会計では、初めて一般会計から法定外繰り入れするという町長提案を可決しましたが、結果は賛成8人、反対7人の僅差でした。



中村隆行
(樋口)

大山町に移住して14年

一年を時間にとすると、約8600時間です。合併して10年、時間になると8万6000時間の歩みとともに、私もみなさんのおかげで、充実した生活ができています。

地区(旧大山、名和、中山)ごとに

違う角度で見ると、大山の形は変わります。それに伴い、風習、なりわい、価値観も変わってきます。そういう多様化した面が感じられる時に、大山町の懐の大きさを感じます。皆さんで一つの山を違う角度で見ながら、そ

れぞれの夢を抱き、目標を定めていると感じています。大きな問題が生じた時には、目先の問題に心を奪われずに、大山を見ている同志としてひとつになり、問題に取り組むべきです。記憶として残る一度限りの大山町での人生です。これからも充実した時間を刻んで生きていきたいです。

圓岡



渡辺仁史
(妻木)

感謝の心で

60歳を前に、人生もいよいよ最終章となりました。みんなは第二の人生とか言いますが、自分の歩んできた道は、ただの一本道、農業一筋の人生でした。でも、すこしも悔いはありません。多くの友人・知人と出会い、

ともに酒を飲み、苦楽を共有できたからです。先日、友人の葬儀に出席しました。彼の人生が幸せな道だったかどうかは、今となっては聞くすべもありませんが、そうであったと祈るしか

ありません。人は一人では生きていけません。家族や地域の人々と共に、支えあいながら歩んでゆくのですね。残された時を精一杯、みんなと楽しく感謝の心で過ごしていきたいと思う、今日この頃です。最近、天候不順が続く、農作業も遅れ気味ですが、「ドンマイ、ドンマイ」またいい日和もやってきます。

【発行責任者】

議長 野口 俊明

【広報常任委員会】

委員長 大森 正治

副委員長 米本 隆記

委員 圓岡 伸夫

委員 大村 正彦

委員 大原 広巳

委員 加藤 紀之